

第 44 回創価大学・第 32 回創価女子短期大学卒業式 「祝辞」

ジム・ガリソン

一、本日は皆さんにとって、生涯忘れられない一日であります。

まずは、貴大学のモットー「自分力の発見」が真に有意義なものであったことを、本日の卒業が証明していることを確認していただきたい。

皆さんが払った犠牲を思い出してください。あの啓発を受けた瞬間も、喜んで課題に挑んだことも、乗り越えた困難も、そして、それらを家族や友人が支えてくれたことも思い出してください。その大小に関わらず、全ての勝利には自分力、つまり潜在的な力を発見し、それを発揮するための努力が伴ったはずですよ。

今日は、ウォルト・ホイットマンを通して「自分力の発見」を探求しようではありませんか。

池田大作博士とラリー・ヒックマン博士とのてい談の折に、私たちはホイットマンを巡る話をしました。ホイットマンは我々一人一人がかけがえのない存在であり、他人とは全く違う個々の自分力を共通して持つと考えていました。これは、日蓮の言葉「是れ即ち桜梅桃李の己己の当体を改めずして」（“Living as Learning”より）の精神にも通じます。皆さんも「桜梅桃李」の哲理を胸に、それぞれの花を咲かせていていただきたいのです（拍手）。

その上で、ホイットマンは、あらゆる固定的なヒエラルキー（階層）を認めず、「平準化」を支持しました。我々はそもそも道徳的に平等であり、固有の潜在能力を発揮し、自分にしかできない貢献を地域社会に行う権利を持っている、と述べたのです。そして、宇宙は一人一人の中にそれぞれ違った、そして新しい何かを創造しており、各人は比類なき自分力を発揮し、極めて優れた社会的価値を創造できる、と考えました。

さらに道徳的平等の平準化が、特有の個性を発現する唯一の方法であるという、一種のパラドックス（逆説）を解決する要素として、思いやり、親切心、慈悲心を包含したアドヒージブネス（接着性）に言及しています。これらは、個性の集団である社会の結合力になると考えられています。思いやりの心を持って、自身の地域社会に価値を創造することにより、唯一無二の自身の存在に恩恵をもたらし、その真の価値を理解することができるのです。

一、私たちは皆、国際的な社会で生活しています。日本のスーパーグローバル大学創成支援事

Jim Garrison (バージニア工科大学教授)

業に採択された創価大学も、そして皆さんも、日本社会の国際化とグローバル社会をリードするための、準備をしなければなりません。

池田博士は1996年にコロンビア大学ティーチャーズカレッジで行った講演の中で、世界市民として肝要な三つの要素を挙げておられます。これらはグローバル社会で自分力を発揮する際、乗り越えなければならない障害を示唆していると、私は考えています。

要素の一つ目は「生命の相関性を深く認識しゆく『智慧の人』」です。

生命の相関性という法則を認識するために、我々は、互いに孤立させる誤った個人主義を乗り越えなければなりません。その法則から創造された価値だけが真の恩恵と善をもたらしてくれるからです。

二つ目は「人種や民族や文化の“差異”を恐れたり、拒否するのではなく、尊重し、理解し、成長の糧としゆく『勇氣の人』」です。

私たちとは違う信念や信仰、考え方、そして価値観を持っている人々は、この世の中で必要とする予想外で新しい価値観を与えてくれます。逆説的ですが、私たちは自らが、他に類を見ない存在となるために、自身とは違う他の人々の存在を必要とするのです。

だからこそ、他の人々が示してくれる真実を見極め、グローバル社会の中で自分力を発揮するためには、自分とは異質な存在に対する恐怖心を乗り越えなければなりません。

三つ目は「身近に限らず、遠いところで苦しんでいる人々にも同苦し、連帯しゆく『慈悲の人』」です。

我々は、苦悩に対する嫌な感情や無関心を乗り越えなければなりません。慈悲の心を根本に生み出された価値だけが、本当の意味での価値を持つのです。

これらの三つの要素は、ホイットマンの考えた「平準化」「比類なき個性」と「接着性」に見事に対応しています。生命の相関性を認識することにより、固定的なヒエラルキーで物事を考えなくなります。また、他の人との差異に対して恐怖心を抱かなければ、その他の人々の比類なき個性を理解し、尊重することができます。そして同苦し、社会が必要とする接着性やコミュニティー意識に寄与するものであります。

さて、誰もがあらゆる困難を乗り越えることができれば、誰も比類なき自分力を持つことにはならないでしょう。

私は一生懸命勉強しましたが、大学1年の時の英語の成績は最低評価でした。また、学生時代から続けているバスケットボールでは、ダンクシュートを決めたことは、一度もありません。

このように、人は挑戦すべき課題に喜んで立ち向かうときでも、潜在的能力がないために、乗り越えられないこともあります。しかし、全力を尽くして試せばこそ、自分に欠落している潜在的な力が何であるのかを知ることができるのです。

自分力を発揮し、自身特有の姿で花開くことができれば、具体的な日々の行動の中で、智慧を持った大きな存在に近づきます。そして、自身に最大の恩恵をもたらし、グローバル社会に最善をもたらす慈悲の行動をとれるようになります。

本日は皆様にとって生涯忘れられない一日であります。学業成就をどうかご家族やご友人とお祝いください（大拍手）。